

私の公認会計士合格作戦

高橋 昂

はじめに

私が公認会計士試験合格を目指したのは、
2012年3月のことでした。浪人もして大
学受験に失敗して途方にくれていたとき、
このままではいけないと思い、社会的に評
価のある簿記の資格を取ろうと、簿記3級の
勉強をはじめました。そこでICライオン
スクールのビデオで井ノ川先生の授業を、
受けました。3級の内容を説明するのかと思
っていたが、なんと勉強方法を力説し始めま
した。私はこの時に、勉強方法の大切さを身
を持って実感しました。井ノ川先生の授業
と、この勉強方法を実践すれば公認会計士試
験にも最短で合格できる！そう思い、簿記
3級から真剣に勉強して絶対に合格しよう
と決意しました。

合格までの道のり

私は2012年3月から勉強を始め、その

年の6月に2級合格、翌年2013年6月に1級合格、そして2014年5月短答式合格、8月に論文式に合格できました。

ICOの通信教育の利用方法

私は北海道に住んでいたのですが、ICOの通信教育を利用していました。DVDとテキストの量がちょうど良く、レジュメはまとめやすく作られていたので、ファイルにまとめをおきました。

私加どのように勉強したのかという点、DVDを視聴しましたが、10分休憩後すぐに復習するようになっています。DVDの視聴時間と復習で2時間半か3時間ぐさいを1セットにしていました。初めて学ぶところでも、臆することなくスムーズに勉強し、その科目をとりあえず完成度は高くなってもいいから一周させることを大切にしていきました。

また、ICOは一度に適度な量を送ってきにくれるので、山積みにならず消化不良の教材を見え不牢になることもありませんでした。

IC0のDVDは視聴時間が短いので、視聴時間だけで長時間取られることなく1周できるのび不安なところがあればもう一度見直し、新しい発見がありました。そして基本的で重要な部分を深く学ぶことができたと感じます。

IC0の授業は、目で見る授業ではなく、頭で見る授業だったので内容の定着が早く、キーワードを外さないで理解できました。それに自分で書くことかほとんど無いように工夫されているので、本当に必要なメモだけ書く事に専念できました。その結果、聞くことに集中できて、理解しやすくなる勢になりました。聴後の復習も早くなり、重要なところを考え、時間が増え、効率的なインプットができました。

失敗から学んだこと

私は1級に1度、短答式に2度落ちました。短答式の1回目は経験を積むために受験し

たのでもちろん不合格でした。が、雰囲気をつかむなどの収穫がありました。私がおと僅かで不合格だ。たとき、1級では68点(合格ライン)70点(短答式)67、7%(合格ライン)70%の点数だった。のでも悔しかったのを覚えていきます。ここで井ノ川先生に、なぜ不合格なのかし、かり分析することか、次の合格に繋がるアドバイスをもらい、答えはもちろん、その時の時間配分や気持ち、現場対応、余白の使いちなど徹底的に分析した

結果、敗因を改善し、そして反省を勉強方法にフィードバックして、得点に直結する勉強をしなければならぬと痛感しました。具体的には、(短答式)迷ったとき、戻れる基礎を作り、基礎から細かな論点に対応する力をつけました。よく、核となるものはなにか? この結論の基礎にはどんな考えがあるか? この説明になるには、どの立場か? を自分に質問しながらテキストを読み込んできました。短答式の計算問題では、時間的に厳しくな

ることが想定されるので、まず遅くともい
から問題を解ける力をつけ、その次にどう最
短で解くのか、を考え、最短で解くための必
要な情報をうまくまとめられる下書きを考え
て2、3回時間をあけて練習しました。もし
て練習後に、洗練された下書きを問題とセッ
トにしておき、直前期へ1ヶ月前から、
短時間で確認できるようにしていました。ま
た、初めの問題を解くとキ、に、重要な情報に
マーカーが色ヤンでチェックしておき、その

重要な情報から下書きが思い浮かべられるに
なる。練習している過程で判断も速くなり本
試験での問題を取捨選択する力を養えます。
他に計算問題でこたわったことは、その
数値を出すことと集計を別の作業としていた
こと。例えば、 $A+B$ 、 $A+B+C$ 、 A
を出すことと B を出すことに集中し、最後の
答える段階で $A+B$ をすることです。一度に
 C を解答しようとするミスが起こりやすい
ので。集計したい数値を一個所にまとめ、

5

最後に集計するところのも効果的です。

論文1発合格までの期間

私が本格的に短答の勉強を始めたのは2013年1月で、1級70点前後の実力で、7月末までは、時間の使い方として財務会計、管理会計の計算を8割、理論を2割で、他の科目はやりませんでした。この時期に大切にしたことは計算で、なにか問われなくても出せるようにしたことです。問題を解くスピードは気にしないで、時間が無制限だから答えを出せるぐさいの実力をつけることです。そして理論では計算と関連ある部分を読んで、理解するようにはしました。

2013年8月からは理論を集中的にやり、計算は最短で解くことを意識して、2日に1回長くても3時間程度短答用に勉強しました。理論でインパクトが終わったが、本試験問題をみて、どう出るのか、どういひかけがあるのかを確認してました。

1/1月からは、予備校で短答と同じ形式の答

練を受け、その次の2日で解き直していただきました。ここで計算に関して、時間配分にこだわっていました。この時期から試験中の時間の使い方を模索し始めました。そして答練のデータを見て、周りの人ができて、自分が間違っていたところを潰しました。そして迎えた12月短答。合格ライン70%で67、7%で不合格でした。原因は財務の理論と企業法でした。こちらを述べたときに戻れる基盤が無いことでした。論文の勉強を

通して克服できました。

12月短答が終わり、実際には不合格でしたが、短答には合格したものとして行動しました。この意識がとても重要です。論文向けの勉強を始めた苦労したのが短答科目の理論で、知ってはいるものの、いざ書けと言われると出てこない。どう書けば良いのかわからないう。その時に工夫したことは、内容面と書き方に分けて、どっちができていないのかは書きさせることです。書けるようになるた

めにどちらの勉強をするかかポイントです。
書けそうなときは自分なりに（キーワードだ
け）書いていました。内容面でキーワードす
り出さこないときはテキストに戻り、原則や
重要な考え方を徹底的に考え納得して、
自分の常識にするよう心がけました。この勉
強では、量をこなせないのど不安になりました。
たが、こなすよりもじっくり考えることがホ
イントです。自分が納得するまで研究する感
いでした。テキストははじめから読まず、必

要なところだけ開き、予備校の論文解答練を中
心に勉強していました。租税法と経営学は2
月までにとりあえが一周して難しいところは
やりませんとしました。理論は全く手をつけず計
算だけ忘れられないようにしていました。こうい
う勉強を4月末まで続け、5月から解答に切
り替えました。短答で出る範囲で自分がしは
らくやっけない範囲を真、先に取り掛かり
、全体を知っている状態で試験に臨みました。
無事合格でき、12月短答と違、たのは、財

⑧

務理論と企業法でした。財務理論は概念フレームワークを何度も読んだことがカギでした。肢同士の正しさや、不自然さを見抜く力がついて、理論8割以上取れるようになった。企業法は論文向けの勉強で核をおさえるようにして、考える企業法になった。短答計算について(特に管理)ですが、解く順番が大切です。最悪のケースは時間をかけて得点できないことです。そこで、問題を見るときに、時間と内容を自分にとって正解できるかどうかに分けて、最悪のケースを避けるように解くことを大切にしました。

短答が終わり、租税法と経営学はまだ本試験に通用するレベルではなかった。なので井ノ川先生にアドバイスをもらい、過去問を分析してみました。出題形式を把握し、簡単に得点できそうな部分に印を付けました。ここでの発見は、どちらの科目も、勝つことではなく、負けないことでした。そして、この2科目は

勉強したところでは得点に直結するまでやり、
アウトプット中心でした。具体的には、答練
↓テキスト↓答練の順番で、答練で問われて
いる部分をテキストに戻りキードだけで
もインプット。その後すぐに答練をやってみ
る。できれば終わりできなければテキスト
を見ながら解答する。また、違う答練で、同
じ範囲が出ていると一度に終わらせて置くこ
が効率的です。ポイントはその答練を1セッ
トと考えず、インプットした範囲の答練の該
当する部分全て潰して1セツトと考えること
です。この方法を実践すると、やらない
範囲はそのまま残っていきます。残りの部分で
本試験に出たところがあり、かつ、他の人も得
点できそうなのところは潰し、それ以外は、時
間と余裕を考えた後回しにしていました。かな
り急ピッチでした。各科目の得点源を作る
ことかでき、形になりました。
そして本試験の3日間。最後までやって
なければわからない。この言葉を信じて全

⑩

力で挑みました。

さいごに

つらいときに井ノ川先生のアレクサを
読んでいました。アレクサを読むと何も
知らずに3級を始めたときの熱い思いが
蘇り、勉強と向き合う自分がいま
しました。この努力は報われる
だろう信じて。勉強方法とは言い換
えれば努力の仕方なのかも知れませ
ん。私は井ノ川先生に勉強方法を教
わりました。それは報われる努力の
仕方だと合格したあとにわかりま
した。井ノ川先生への感謝とIC
ライセンスクールで頑張るみなさん
の役に立てればと思います。執筆致
しました。ありがとうございました。あ
りかとうございま